

意欲と将来性

入社への強い **意欲** を示すには、**志望動機**が重要です!

【■志望動機のポイント】

自分が話せそうなことを選んで、練習してみましょう。

- 自分は〇〇に興味があり、もっと学ぶために、この仕事がしたい。
- 自分は過去にこんな経験をしてきた。その経験を活かして仕事をしたい。
- 自分はこんな生き方をしたいと考えている。だからこの仕事がしたい。

※志望動機の強さを伝えるには、志望理由を明確かつ具体的にすることが大切です。これまでの経験を踏まえて、自分の生き方や考え方をアピールすると説得力が出ます。

自分が **将来性** を備えていることを、これまでにしてきた努力を踏まえてアピールしましょう!

【■将来性のアピール例】 (話せそうなのはどれですか?)

- 専門スキルや資格の取得
専門的な能力を身に付け、各種資格を取得するまでに努力してきたこと。
- これまでに学び、成長してきたこと
苦労したことや、失敗から学んだことなど、具体的な経験談。
- 将来の目標、キャリアプラン
入社後の目標を具体的に掲げて、努力・勉強し続ける姿勢。

採用選考が始まります!

面接における質問では、まず入社への**意欲**が測られます。なぜこの企業を選び応募してきたのかを、面接官は志望動機などから判断します。

しかし、**意欲**があっても、入社後の**将来性**がなければ、その会社にとっては必要な人物ではないと会社は判断します。

面接官は、入社への**意欲**を測るとともに、その人の**将来性**を探ろうとします。面接官が最終的に知りたいのはこの2点です。

面接試験

やってはいけない7つの立ち居振る舞い

面接官に悪い印象を与えやすい立ち居振る舞いがあります。無意識の場合もありますから、次の例のような行動が自分にないか確認しましょう。心当たりがあれば、試験までに直すように努力しましょう。

① 目を見て話さない

目を見て話すのはコミュニケーションの基本です。面接官と目を合わせないのは印象がよくありません。初対面の面接官と向き合うのは恥ずかしいかもしれませんが、話すときはきちんと目を見て話すようにしましょう。

② 手遊びをする

手遊びをする様子は、面接官から見るとかなり目立ちます。手を揉んだり、指をいじったり、体を触ったりすることです。緊張していてつい何気なくやってしまっているのかもしれませんが、露骨に出さない方がよいでしょう。

③ 仁王立ちをする

足を開いて立っている様子は、威圧的に感じます。立っているときは足を閉じた状態にしましょう。

④ 椅子の背にもたれる

椅子の背にもたれていると、意欲や熱意が無いと誤解されます。何を話しても説得力が弱くなります。

⑤ 露骨な前かがみになる

この姿勢も威圧的に感じるため控えた方がよいでしょう。椅子に座るときは、背筋を真っ直ぐに伸ばした状態が理想です。

⑥ 足を小刻みに動かす

落ち着きがないと思われます。特に印象の悪い癖ですから、必ず直すようにしましょう。

⑦ 必要以上に髪の毛を触る

髪の毛を触る癖は、自分では普通だと思っていなくても、面接官には良い印象を与えません。

楽を求めたら、苦しみしか待っていない。

—— 野村 克也 (元プロ野球選手・元監督〈ヤクルト・阪神・楽天〉) ——